



南部町立南部中学校 学校だより 第19号

# チーム南部中

令和4年1月18日(火)

校長 望月和彦

## 新しい年を迎え 3学期が始まりました

令和4(2022)年1月11日(火)、第3学期始業式を体育館で行いました。17日間の冬休み中も、年末年始を除くと、たくさんの生徒が部活動や入試に向けた面接練習、生徒会事務局の活動など、様々な活動で学校に登校していました。大きな事件や事故もなく、充実した冬休みを送れたことが何よりです。始業式では、各学年と生徒会の代表者が3学期の抱負を述べました。1年の望月心愛さんは「今まで以上に友だちとの交流を大切にしていきたい。明るさと助け合いを大切に、2年生に向けてより良い集団になっていきたい。」2年の萩原音色さんは「今年は最高学年になるので、やると決めたことをやりきるようにしたい。特に、気持ちの良いあいさつと先を見据えて行動することを心がけたい。3学期は大イベントの三送会があるので、2年生が主体となって成功させたい。」3年の遠藤滉太さんは「今学期は何よりも受験があるので、3年生全員で受験に向かっていく雰囲気をつくりたい。そして、3年生として南部中に何を残していけるかを考えながら、残り2ヶ月を後悔しないように過ごしていきたい。」生徒会長の芦川圭澄さんは「3年生は受験や卒業式があるので、仲間と一緒にがんばって受験を乗り越え、みんなで最高の卒業式を迎えてください。1年生は4月から先輩になるので、どのような行動をすれば頼られる存在になれるかを考えて力をつけていってほしい。2年生は最高学年となるので、リーダーシップを発揮して学校を支えていけるように、集団や個々の力を



さらに高めていきたい。」と堂々と新年の決意を発表してくれました。

私は式の中で、次のような話をさせていただきました。

明けましておめでとうございます。(略) 一昨日は春高バレーで日本航空高校男子バレー部が県勢初の日本一に輝くという快挙がありました。新聞やテレビで見た人も多いと思います。航空高校のバレー部は昨年6月に校内で新型コロナの感染者が発生したためにインターハイ予選の出場を辞退していました。インターハイは春高バレーと同じく、高校バレー部が最大の目標としている大会です。辞退を決めたときにバレー部の部員は皆で泣き夜も寝られなかった生徒もいたということでした。自分のせいではない原因で目標が奪われたときに、人はどんな気持ちになるのでしょうか。何もする気になくなってしまったり、航空高校に入学したことを後悔したりした生徒もいたのではないかと想像できます。しかし、航空高校の選手たちは、その悔しさをバネに、前をしっかりと向いて次の目標に向けて、それまで以上がんばったということだと思えます。そうでなければ、果たし得なかった結果だと思えます。決勝ではインターハイで全国一になった鎮西高校を奇跡的な逆転劇で破っての優勝でした。山梨県民に大きな勇気を与えてくれた出来事でした。人生には自分の力ではどうにもならない試練があります。その時に自暴自棄になるか、次の目標を描いて立ち向かうか。過去は変えられることはできません。その時の状況をきちんと受け止めて、これからできる事に立ち向かっていける強い心を持ちたいものです。私自信もとても勇気づけられました。

さて、回復傾向にあった新型コロナウイルスの状況はオミクロン株という新しい変異種の出現で、全国的に感染が急拡大し、沖縄、広島、山口、東京、大阪などは大変な状況になっています。そして県内でも感染者が拡大しています。そうした状況を受け、7日には安心メールで1年生の保護者には連絡したところですが、明日予定されていたスキー教室は中止にしました。楽しみにしていた1年生には残念な思いをさせていただきましたが、皆さんやご家族、特に入試直前の3年生のことを考えての判断ということで理解してください。今後も当分の間、感染症対策を強く意識した生活が続きますが、これまでと同じように、みんなの幸せと健康のため

に、我慢もしながら、その中でできることを考えて充実した学校生活を送っていきましょう。

3学期の授業日は、1・2年生は51日、3年生は41日と大変短い学期です。それぞれの学年のまとめの学期であり、次の学年への心構えをつくる期間であります。3年生にとっては中学校生活、義務教育の締めくくりの学期です。3月末には1年間の成長を実感し、この仲間、この学級、この学年、そして、この南部中で「やってこられて本当に良かった」と一人一人が心から思えることを望みます。そして3年生は、それぞれの進路実現のときです。最後まで力を振り絞り、入試という壁をみんなで乗り越え、喜び合える3月を迎えられることを祈っています。皆さんの3学期での活躍を期待しています。

## 集中して半紙に向かう 「校内書き初め大会」

2・3年生は11日の始業式のあと、1年生は13日の5・6校時に「校内書き初め大会」を行いました。12月から冬休みにかけて授業や家庭で練習してきた成果を発揮するときです。1年生は「希望」、2年生は「無限の力」、3年生は「天地清新」という字を行書で書きました。シーンと静まりかえった教室で、一人一人が新年の決意を込めて半紙に向かいました。それぞれが書いた作品の中で最も良いものを教育祭書き初め大会に出品します。「どっちがいいと思う？」友だちに、出品する作品を選んでもらう姿もあらこちらで見られました。



## 中学生が地域のためにできること 「地域清掃」

本校はコミュニティ・スクールとして「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいます。学校教育の様々な場面で、地域の多くの方々のお借りしている一方で、中学生が地域の方々のお力になれる活動（地域貢献活動）にも取り組んでいます。12月21日（火）には、福祉委員会の企画で「地域清掃」を行いました。登校時には買い物袋などを持って通学路のゴミを集め、放課後は部ごとに諏訪神社やセレモニーホール方面、アルカディア周辺、南部地区の富士川側土手沿いの道、南部医療センター周辺などに分かれて、3年生やその他の生徒は学校周辺の道路のゴミ拾いを行いました。学校に集まったゴミは、福祉委員が燃えるゴミ、缶やビン、その他の金物などに分別して処分しました。今年度は1年生の福祉施設訪問や吹奏楽部による訪問演奏会、町防災訓練でのトリアージ訓練への参加、たけのこまつりやアルカディアフェスタ、文化祭への協力、駅伝大会への参加などの地域貢献活動が感染症対策のために中止となりました。なかなか中学生が町や地域の方々のために活躍する場面がつかれませんが、「地域清掃」など今後もできることを考えて取り組んでいきたいと思えます。



## 「いざという時」に備えて

12月21日（火）にゲストティーチャーの山梨県立博物館職員の望月大先生が2年生の社会科の授業を行ってくれました。テーマは「自然災害に対する備え」です。自分の住んでいる地域の地形図を使って、起こりやすい災害を推測し、災害の危険があるときにどのような行動をとれば良いかを考える授業でした。自然災害の知識だけでなく、身近な危険を予測し、「いざという時」に最善の行動がとれる力を身につける授業でした。



1月14日（金）に避難訓練を実施しました。これまでも地震想定で2回行ってきましたが、今回は地震によって校庭西側の斜面が崩れるという土砂災害も含めた想定での訓練でした。生徒には訓練時刻や避難場所を告げずに実施しました。突然の放送による指示で、今までと異なる場所（スクールバス上の駐車場）への避難指示を出しましたが、素早く整然と避難することができました。今後も様々な想定での訓練を実施し、「いざという時」に適切な避難行動をとれる力を育てたいと思えます。

